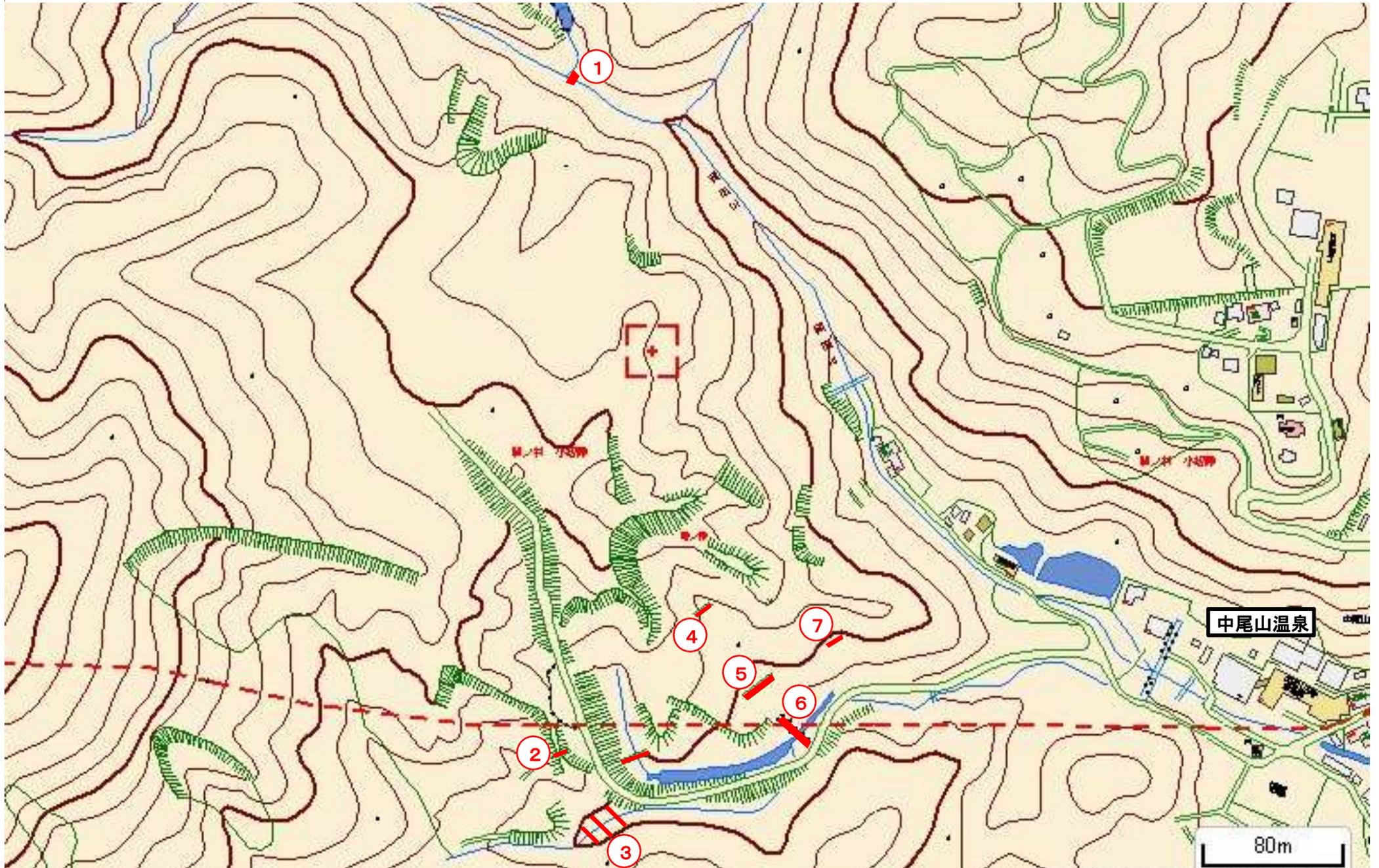


# 土尻川砂防事務所管内の主な歴史的砂防施設(岡田川)



岡田川は、長野市篠ノ井小松原の中尾山温泉上流を源とし、県道犀口下居返線と出会う所から急に南に向きを変えて千曲川へ流下する河川です。これは、1600年前後に稲作利用のため人為的に川筋を導いたことによります。

源流部は風化の進んだ凝灰岩に覆われ、荒廃の進んだ禿(はげ)山状態が奇観を呈しています。記録によると現在の岡田川の水源地では、土尻川砂防事務所管内で最も古い明治14(1881)年から明治17(1884)年にかけて国(内務省)が直轄で砂防工事を実施し、石張堰堤を10基と山肌の緑化対策工事が行われました。

しかし、埋塞や後世の修繕工事などで現在も確認できるのは2基だけです。



本川最上流部にある  
石張水路工①



支川へ流入する左小支川にある石張水路工②、背後にある石張堰堤は昭和になってから設置されたものです。



昭和に支川右岸山腹に連続して  
3基設置された石張堰堤③

昭和に支川左岸山腹上部に設置された石張堰堤④





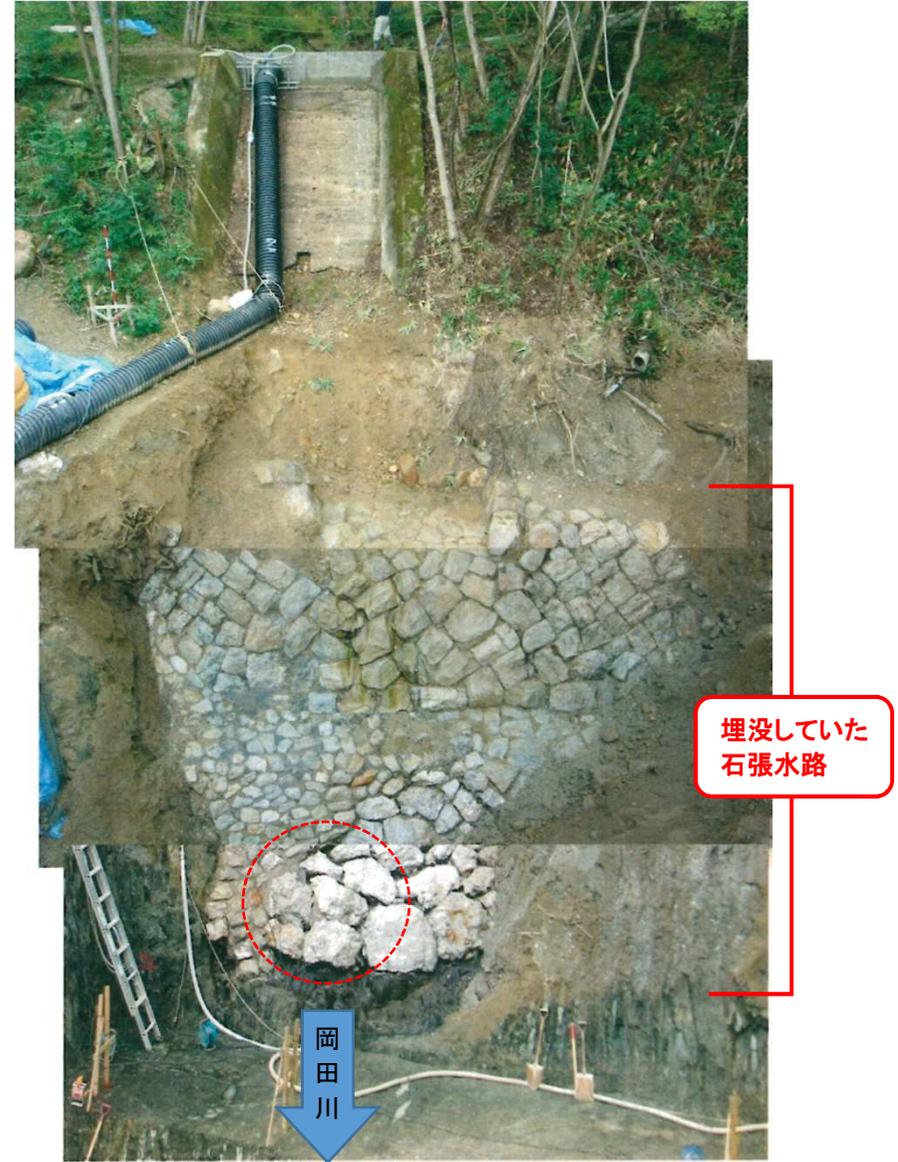
昭和に支川左岸山腹下部に設置された石張堰堤⑤

平成23年に砂防堰堤を新設するために掘削したところ、  
既設床固工下流の石張水路が確認されました



※平成23年当時の資料が確認されたので、令和2年9月に当ページを追加しました。

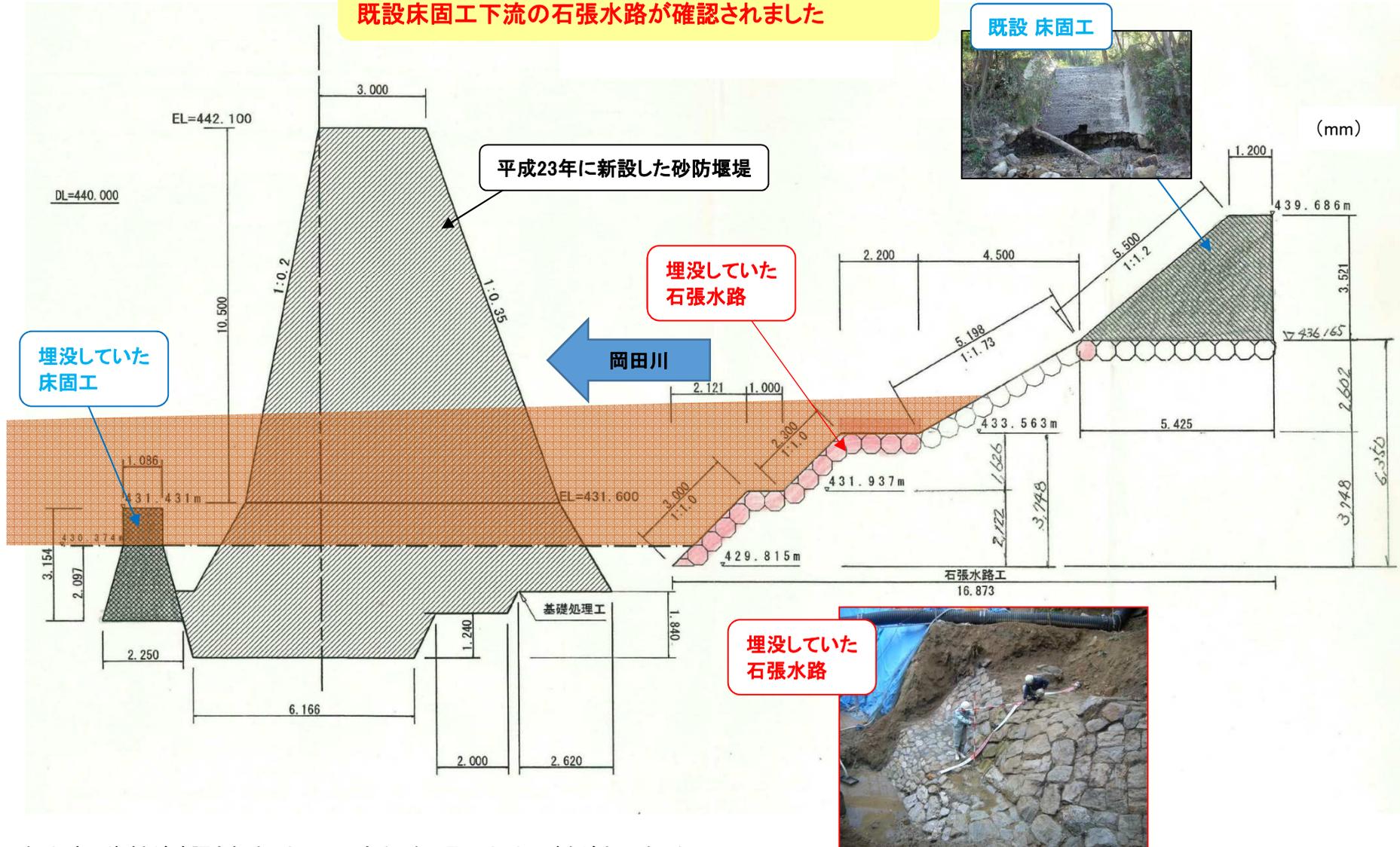
下流から見た石張水路工の全景



砂防堰堤の新設に伴い確認された石張水路工⑥

## 石張水路工⑥ 縦断図

平成23年に砂防堰堤を新設するために掘削したところ、  
既設床固工下流の石張水路が確認されました



※平成23年当時の資料が確認されましたので、令和2年9月に当ページを追加しました。



昭和に支川左岸山腹に設置された石張堰堤⑦